

療養患者さまの作品展 後半展示 開催中



写真は前半展示の様子

「自宅で療養する患者さまの作品展」の後半展示が9月12日(水)から亀田クリニック1階で始まりました。

この作品展は、当院地域医療支援部が2012年から取り組んでいるもので、麻痺した手に筆をくりつけて描いた絵画や、日常の療養生活を表現した川柳、短歌、楽しみで始めた折紙や手芸など、身近なものを題材とした作品を前半・後半の2回に分けて展示しています。後半展示は10月5日(金)までとなります。亀田クリニックを受診された際は、ぜひお立ち寄りください。

70歳以上の皆さまへ^(※)

高額療養費の上限額が変わりました

高額療養費制度とは、ひと月に医療機関に支払った額が高額になった場合に、定められた上限額を超えて支払った額を払い戻す制度です。また、上限額は、個人や世帯の所得に応じて決まっています。

この上限額(毎月・70歳以上)が、今年8月から変わったことをご存知ですか？ **特に現役並み所得者(年収約370～1,160万円(課税所得145～689万円))の方はご注意ください。所得に応じて適用区分が3つに細分化され、それぞれ限度額が引き上げられました。**

また、平成30年8月以降、ひと月にひとつの医療機関でお支払いが高額になる可能性がある方は必ず、市町村窓口にて「限度額適用認定証」の交付を申請してください。医療費を支払う際、会計窓口で「限度額適用認定証」が提示されない場合、支払額が高額になる場合があります。(ただし、その場合でも、上限額を超えて支払われた額を後日払い戻すよう申請することができます)

高額療養費制度の詳しい内容は、厚生労働省のホームページほか、国民健康保険にご加入の方や後期高齢者医療制度の方は「お住まいの市区町村の担当窓口」、健康保険組合、全国健康保険協会、共済組合、国民健康保険組合にご加入の方は「ご加入の医療保険者」までお問い合わせください。

(※)：65歳以上の方で障害認定を受けて後期高齢者医療制度に加入している方も対象になります

10/6(土) リハビリ市民講座

テーマ:今日からはじめる足腰づくり

メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防として足腰を鍛える運動を学んでみませんか？

10月6日(土)午後1時(開場12時半)から亀田クリニック5階リハビリセンター内研修室にて、「今日からはじめる足腰づくり～メタボもロコモも足腰から～」というテーマでリハビリ市民講座を開催いたします。(参加費無料,先着50名(事前申込不要))

亀田スポーツ医科学センターの宮本瑠美健康運動指導士が実際の運動も交えてご説明いたします。動きやすい服装でご参加ください。



がん患者さまとご家族のための ピア・サポーターズサロンちば

9月28日(金)午前10時～午後3時、亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールにて、がん患者さまとご家族のための「ピア・サポーターズサロンちば」を開催いたします。



「ピア・サポーターズサロンちば」は、がん経験者であるピア・サポーターが「仲間」としてがん患者さまやご家族の悩みを聞いたり、体験をお話する場です。少人数制でお話ししやすい雰囲気です。事前申し込みは不要ですので、どうぞ気軽にご来場ください。

※ピア・サポーターは医師やカウンセラー等ではありませんので、医学的な相談や専門的なカウンセリングは行いません。

【お問い合わせ先】

亀田総合病院 総合相談室 (TEL: 04-7092-2211)

bayfm「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

9月は学校法人鉄蕉館「亀田医療大学」の学生が出演いたします。どうぞお聴きください。



第1話 痔核

はじめに

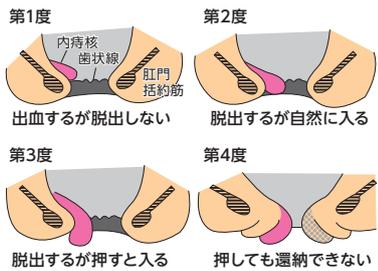
「直腸肛門外来」をご存知ですか？ 消化器外科のなかでも、痔や便秘、便失禁といった良性的肛門疾患を診療しています。外来担当医は日本大腸肛門病学会の専門医である、角田明良と高橋知子です。

これから半年間にわたり、直腸肛門外来が扱っている疾患についてご紹介していきます。第1話は肛門の病気で最も多い「痔核(じかく)」の話です。

痔核とは

痔核は世間でいう、「いぼ痔」のことで、肛門の疾患でもっとも頻度の高い病気です。痔核は、長さ3～4cmの肛門の上部にできる内痔核と下部にできる外痔核に分けられます。

図1 内痔核の病状の進行(Goligherの分類)



主に手術の対象になるのは内痔核です。内痔核は細かい血管の集まりが「こぶ状」になったもので、大きくなると出血の原因になります。さらに大きくなると肛門の外に脱出し、痛みを伴うことがあります(図1)。

痔核の誘因は何ですか

痔核発生の誘因は、長期にわたる排便時の「いきみ」です。便秘がちの人に多い病気であることもそれを裏付けています。いきみに伴って肛門を支える組織が弛んで、痔核の脱出につながると考えられています。

内痔核の内科的治療は何ですか

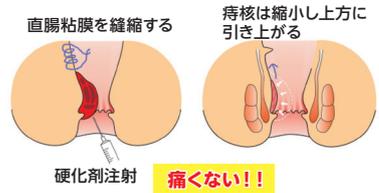
過度にいきまないで排便をする習慣を身につけることが基本です。便が硬くて出にくい方は食事を見直すことが必要ですが、それで効果が無い場合は緩下剤を内服することも考えるべきです。出血に対しては坐薬を処方して

もらうと有効です。

どういう内痔核に手術をするのですか

緩下剤や坐薬などの内科的治療で出血や肛門外の脱出が治らないときに手術を考えます。脱出する内痔核を指などで押し込む必要がある方や、常に肛門外に脱出している方は手術の適応です。とりわけ、内痔核を指で押し込む方は、脱出する度にトイレへ行かなくてはならない煩わしさから、手術を希望される方が多いようです。

図2 硬化剤注射+直腸粘膜縫縮術



どのような手術ですか。痛くない手術はありますか

- 1)出血のみや脱出が軽度の場合は、硬化剤を内痔核に注射する手術を行います。手術後の痛みはほとんどありません。
- 2)脱出する内痔核を指などで押し込む必要がある方は切除する方法と、切除しない方法(硬化剤の注射+直腸粘膜を縫い縮める方法)(図2)があります。切除する方法は手術後に痛みと出血がありますが再発は少ないようです。切除しない方法は手術後に痛みと出血がほとんどありませんが、再発は切除する方法よりやや多いようです。
- 3)常に肛門外に脱出している方は切除する方法を行います。

入院期間はどのくらいですか

手術のために行う麻酔は通常、脊椎麻酔です。麻酔後はすぐに自立歩行ができませんので、どの手術も最低1泊2日の入院が必要です。手術後の痛みが大きい場合には2泊3日になることがあります。

退院後の通院はどうなりますか

退院後1週間または2週間後に外来受診していただきます。その後1～2回の受診が必要で、全体で2～3か月を要します。

手術をしなければどうなりますか

当然のことですが、内痔核の症状が続くこととなります。また、脱出する内痔核を指などで押し込む習慣のある方が、突然内痔核がさらに大きくなって、肛門内に押し戻すことができなくなることがあります。これは「内痔核の嵌頓(かんとん)」といわれるもので、激痛をきたし、緊急手術になることがあります。



オルカ鴨川FCの村岡選手 W杯優勝 喜びの報告

8/5～8/24にフランスで開かれた「FIFA U-20(20歳以下)女子ワールドカップ」で、当院が応援する女子サッカー「オルカ鴨川FC」の村岡真実選手が日本代表

(ヤングなでしこ)の一員として初優勝に貢献しました。

金メダルを手に帰国した村岡選手は、「本当によい経験をさせていただきました。大会中、SNSを通じて日本から応援のメッセージをいただきました。現地は電波状況が悪く、画像がなかなか見られませんが、文字でしっかり読んでいました。ありがとうございました！」と喜びを語ってくれました。